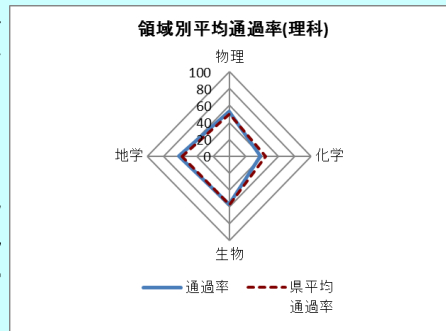


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 51.7%, 県 51.8%)

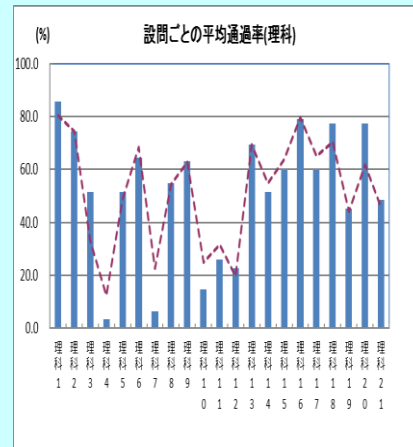
対県比 99.8 %

本年度の結果について

領域別平均通過率



設問1の平均通過率



学力定着実態調査 本年度正答率

本校 56.6%
全国 64.0%

対全国比 88.4%

○理科の結果においてタイプⅠは55.6%, タイプⅡ46.4%の通過率となっている。タイプⅠにおいては通過率が大きく異なり、50%を超えている設問が12問中10問あるが残りの2問が極端に低い。タイプⅡにおいては50%に達していない設問が9問中5問が50%に達していない。

○領域別でみると物理53.2%, 化学38.2%, 生物56.5%, 地学61.6%となっている。化学領域の通過率が特に低く、実験のデータを分析し筋道を立てて結論を導き出すことが苦手である。

重点課題

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】(力の表し方) (3.2%)

▼力を矢印で表す場合、作用点の位置、力の向き、大きさを正確に表す必要があるが、3つの条件を正しく表すことができていない。力の表し方の基本が身につけておらず、繰り返して練習するスキルが不足している。

【課題2】(溶質の再結晶) (6.5%)

▼溶解度が水100g中に溶けることのできる限界の量であることが理解できていない。また、溶解度が物質においても、温度においても変化することも理解できていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

「基礎・基本」定着状況調査

【課題1】目標値(70%) 実施後数値()%

◎力の合成分解において、3力のつり合い条件を調べる実験で体験をさせるとともに、3力のつり合い作図の演習を繰り返すことで、力を矢印で表す方法を身に付けさせる。板書など力の矢印を書くときでも、作用点の向き、力の大きさを示す矢印の長さを常に確認しながら進める。

【課題2】目標値(60%) 実施後数値()%

◎物質の持つ特性を利用して、生活の中に生かされている科学技術があることを理解させる必要がある。化学分野における様々な現象や変化を、生活の中の実体験とつなぎ合わせて考えさせることで、定着を支援する。

※今後の改善計画については別紙